日 新 鐘

永遠の

イ チ 高

― 未来への襷

Ask what we can do in TOKYO for ICHIKO

第57回 甲府中学·甲府一高 東京同窓会



山梨懸立甲府中學校校歌

作曲:東京高等音樂學院作詞:三井甲之

共に窮りなかるべし 皇國の榮えは天地と 生まれしことのうれしさよ 神の御代より一系の 我等は日本に生まれたり 皇統戴く我國に

大和島根に山めぐる 皇國の鎭めと聳えたり 見よや南に富士ヶ嶺は 我等の務め輕からず 郷土の歴史顧みよ 甲斐の國あり水清き

大海原の搖りやまぬ 護れ皇國を諸共に 進むぞ大和ごころなる 波をも風をも凌ぎつつ 撓まず萎縮まず辟易がず 國民擧りて國のため



山梨県立甲府第一高等学校校歌 作曲:小松清作詞:上条馨

古へゆ

雄心伝へ

甲斐の国

み中に建ちて

日に新た 新しき 真なる 弥高き 励みなむ 勉めてむ 理究め のぞみをもちて 世の鑑とし この学舎に 若人我等 また日に新た

清き哉 聳え立つ もろともに 玉と磨きて 甲斐の山川 芙蓉の高根

賛くべし 天地の化育



』に寄せて

智北里大学特任栄誉教授のノーベル医学・生理学賞受賞は、誠 に喜ばしく県民として誇りに思う次第である。 昨年、山梨県人として初のノーベル賞受賞者が誕生した。大村

狙いを定め、地道に研究を続け、遂に「イベルメクチン」の開発に成 の工業高校(夜間定時制)で教鞭を執られ手いる折に、夜間、昼 されてノーベル賞に連なった訳である フリカの風土病「オンコセルカ」症にも効くことが判り、それが評価 功するに至った。本来動物の対象薬であった「イベルメクチン」が、ア 大、北里大へと進み、土の中の微生物こそ資源の宝庫であると 間の仕事を終えて勉強に励んでいる生徒の姿に、自分はこれで良 体出場の実績も残したと言う。それから山梨大学を経て、都立 いのかと発奮し東京理科大大学院で学んだ後、研究者として梨 先生は、韮崎高校の卒業生で、在校中はスキーに熱中し、国

要諦である の道を歩み続ける事、それこそが一流と言われる境地に到達する 姿に感心させられる。そして、先生を貫くものは、こつこつと一筋 先生に触れ合う機会のある私は、いつも先生の謙虚で温和な

の襷~」である。創立百二十五年を迎える伝統校を、過去もこれ 向けてその襷をつないで行こうと言うことだ からも輝き続ける同窓生の永遠の誇りとして位置づけ、未来に ところで今年の東京同窓会のテーマは、「永遠の一高~未来へ

大村先生の信条は、「一期一会」と言うことだ。

んで行けば、道は必ず開かれるのだ。 高で学び舎を共にした縁を大事にし、地道に、粘り強く歩

継がれる機械となる事を切に願う次第である この同窓会が、「襷」を確認し、干波から後輩へとしっかり引き

だきます



探究科を新設

ができますことに心より感謝いたします。 生の皆様の「同窓会奨学金」「日新基金」等へのご支援、ご協 開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、同窓 力により在校生がより良い環境の中で学校生活を送ること 平成二八年度甲府中学・甲府一高東京同窓会が盛大に

が全国総文祭に出場しました。 学等を含めた進学実績は着実に向上してきています。部活 送部、新聞部、美術部、アカペラ部、弦楽部、書道部、文学部 動では、テニス部、アーチェリー部、山岳部がインターハイに、放 では、国公立大学に延べ一〇九名が合格しました。私立大 昨年度の母校の状況を報告させていただきます。進路面

で、三年目となる文科省指定のスーパーグローバルハイスクール の枠を超えて幅広く探究する姿勢を持ち、国内外で活躍で 科を新設しました。探究科は二クラス八○名の定員で、文理 きるグローバルリーダーの育成を目指していきます。その過程 (SGH)としての探究活動もさらに発展させていきます。 本年度は、平成三年に設置された英語科を改編し、探究

ます。 皆様の益々のご発展とご健勝を祈念し、ご挨拶といたし 指導に当たっていきます。これからも東京同窓会の皆様の変 五㎞、女子四一・六㎞の距離で実施予定です。 徒の安全を考え若干のコースの見直しをして、男子一〇三: らに期待できる状況にあり、教職員一同 わらぬご支援、ご協力をお願いするとともに、東京同窓会の 進学校としての実績や諸活動における成果は、今後もさ 伝統行事の強行遠足は今年で九○回目を迎えます。生 一丸となって生徒の



平成二十八年度幹事長

ご挨拶

べての同窓生の皆様に対して当番幹事学年一同心より厚く御 甲府中学・甲府一高東京同窓会にご出席を賜り、誠にありがと うございます。また、日新鐘の作成、広告掲載等に多大なるご協 支援、ご協力をいただきました母校の教職員の皆様、そのほかす 力をいただきました皆様、東京同窓会開催にあたり多大なるで ご来賓の皆様及び同窓生の皆様、本日はご多用の中、第57回

の想いでこのテーマを設定しました 伝統ある母校を、過去もそしてこれからも輝き続ける同窓生の 永遠の誇りとして位置づけ、未来へ向けて襷をつないで行こう、と ~」といたしました。私たち昭和53年卒は、創立13周年を迎えた さて、今年の東京同窓会のテーマは「永遠の一高~未来への襷

た。当番幹事が当日着用するポロシャツを同窓生の皆様にも購入し とし、その一つの想いがポロシャツ販売という形で実現いたしまし て頂き、販売益すべてを母校に寄付することにいたしました。 サブァーマは「Ask what we can do in TOKYO for ICHKO.

く参加していただけることを願って当番幹事長の挨拶とさせていた 同窓会が皆様の旧交を温め、また平成卒業生が来年以降さらに多 の軽快な歌謡ショーで皆様を楽しませていただきます。本日の東京 の懐かしのメロディーと同じく同級生の歌手・俳優の石原慎一さん 事をメインに掲載いたしました。ヴァンフォーレ甲府は鶴城クラブが 監督でもあった保坂司さんの記事や現役サッカー部員との対談記 前身であり、まさに甲府一高サッカー部〇日が原点になっています。 懇親会では昭和53年卒の同級生が組むアマチュアバンド「T-BOX そして、「日新鐘」では母校の卒業生であり、ヴァンフォーレ甲府の 57th 甲府中学·甲府一高 2016 年東京同窓会記念誌 「日新鐘」Vol.23

目次

岑稿 1

【編集後記】

山梨県立甲府中學校 山梨県立甲府第一高	校歌・ 等学校校歌⋯⋯⋯1
発行によせて ごあ	いさつ2
東京同窓会会長	井上幸彦
甲府第一高等学校校長	堀井 昭
平成28年度幹事長	飯窪光隆

【特集】ヴァンフォーレ甲府のルーツは鶴城クラブにあり

精神科医になるまで、そして精神科医とは・・・・

●ヴァンフォーレ甲府のクラブの始まりは、甲府一高 OB の鶴城クラブから、その変遷を 綴ったドキュメント。また、在校生との座談会も特別に掲載しています。

H3 11-32	
	埼玉医科大学 神経精神科・心療内科教授 太田敏男(昭和45年卒)
	在校生にも是非読んで頂きたい、成功ばかりでなく失敗の談話もある。
	精神科医の立場から見た高校時代とは。
寄稿文2	「親子で一高」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
	親子で、一高で学んだ卒業生2名に、お願いして書いてもらった、寄稿文。 1名は昭和53年卒、もう1名は平成19年卒。それぞれの、家庭における 一高の存在が、見受けられる。
	と SGHの1年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21 広げて、未来を志す一高生の1年間(2015年)の軌跡

間の1千C0011の1千	
可能性の翼を広げて、未来を志す一高生の1年間(2015年)の軌跡	
【一紅会】「一紅会の歩みをみつめながら」(一紅会会長・谷口百合子)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
【一紅会第19回春の講演会】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	.28
演 題:ウイスキーは「日本」の酒である 講 師:サントリー名誉チーフブレンダー 輿水精一氏(S43年甲府一高卒)	
【広告】	32
【幹事からのメッセージ】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62

63



ヴァンフォーレ甲府のルーツは鶴城クラブにあり

日に新た、また日に新た。甲府一高サッカー部にしかできない、「美しいサッカー」を積み重ねていこう。それがクラーク師の教えを引き継ぐ大先輩から託された、現役サッカー部への襷(たすき)だった。ヴァンフォーレ甲府のルーツをたどれば、甲府中学・甲府一高サッカー部 OB 会「鶴城クラブ」に行きつくことは多くの同窓生が知るところだ。しかし昭和29年の北海道国体におけるサッカー部の快進撃となると、これまで意外にスポットが当たっておらず、知る人も少ない。しかもこの裏には、戦後最大級の大惨事となった洞爺丸事故との間に、運命を感じさせるストーリーも存在していた。

【取材/構成】 ジャーナリスト・小川 朗(昭和53年卒)

洞爺丸事故を一回戦突破で回避

昭和29年(1954年)は鶴城クラブの後輩たち、甲府一高イレブンが最があり、前回の東京五輪から10年前とであり、前回の東京五輪から10年前とであり、前回の東京五輪から10年前と

> がった。 一高サッカー部のレベルは飛躍的に上 に技術とチームワークが加わり、甲府

そのプレースタイルは、全国の強豪たちにも脅威だった。あれよあれよとたものの、堂々の準優勝を飾った。 この裏で、命運を分けたドラマがこの裏で、命運を分けたドラマがもあった。実は甲府一高イレブンが、もあった。実は甲府一高イレブンが、もあった。実は甲府一高イレブンが、もあった。実は甲府一高イレブンが、もという。

ご存知の通り。
ご存知の通り。

昭和29年9月26日。その日、津軽海峡はまさしく、大荒れの天候であった。 未明に九州へと上陸した台風15号は1十0キロの速度で日本列島を北上。 17時前後に津軽海峡を通過するとみられていた。

南西からの平均40%、最大瞬間風速50 しかしこの後急速に天候は悪化した。 風が収まったため天候が回復すると

はという暴風と猛烈な波浪のため、函館港防波堤灯台近く、海岸まで数百点のところに停泊。寝台車と貨物車を積んでいて重心が高くなっていたこともがでいて重心が高くなっていたことものでは、4時間後に転覆し、乗客乗員

行方不明者を出す大惨事となった。 もし1回戦敗退なら、一高イレブンもこの洞爺丸に乗る筈だった。ある意味、彼らは実力で自らのピンチを遠ざ



5月4日の柏レイソル戦、前半12分ごろ、ヴァンフォーレサイドでの攻防シーン【写真提供 ヴァンフォーレ甲府】

ヴァンフォーレ甲府

草創期

1913~1956年

総合グラウンド」だった。 総合グラウンド」だった。 総合グラウンド」だった。 総合グラウンド」だった。 総合グラウンド」だった。 総合グラウンド」だった。 と、 の は 現 は、 この 機運は、 この 機運は、 この 機運は、 この に と り上がってい た。 昭和29(1954)年5月、第34 に の 山梨県立大学がある「 県営飯田町

本のサッカー界にも一大エポックだっ本のサッカー界にも一大エポックだった。 県協会の誘致活動が実り、天皇杯が初めて東京以外の場所で開催されることにもなったからだ。これは日本サッカー協会が山梨を「サッカーの盛れな地域」であることを、認めた証明んな地域」であることを、認めた証明でもあった。

山梨大学の前身である山梨師範学校にい。それからさらに41年遡る大正2年、いのそれからさらに4年遡る大正2年、

価は高まりつつあった。 重崎中、日川中、甲府商業なども創部 正崎中、日川中、甲府商業なども創部 でき、昭和初期までに甲府中、

時計を昭和29年に戻そう。決勝はサンフレッチェ広島の前身である東洋エンフレッチェ広島の前身である東洋工でいる。この天皇杯を観戦していたのが、後に甲府クラブを創設することとが、後に甲府クラブを創設することとが、後に甲府一高)蹴球部〇Bらと府中学(現甲府一高)蹴球部〇Bらと

田本ナンバーワンを決める「東日本ナッカー大会」で韮崎、日川、甲府工サッカー大会」で韮崎、日川、甲府工業が1・2・3フィニッシュ。県の体業が1・2・3フィニッシュ。県の体では野口二郎山梨の県技に」というムーブメントが生まれてくる。その中心には野口二郎山梨れてくる。その中心には野口二郎山梨が翌31(1956)年。全国都市対抗が翌31(1956)年。全国都市対抗が翌31(1956)年。全国都市対抗大会が東京・後楽園球場で開催される。

は、とうして は、とうでもある前出の川手と、最後の 中府クラブ会長となる鈴木旻だった。 中府クラブ会長となる鈴木旻だった。 中府クラブ会長となる鈴木旻だった。 中府クラブ会長となる鈴木旻だった。 中府クラブ会長となる鈴木旻だった。

三人は本格的に選抜チームの編成に 二人は本格的に選抜チームの編成に 田利男(山梨大)福島久雄、浅井和夫(と 田利男(山梨大)福島久雄、浅井和夫(と 日川、甲府商〇Bなど県内トップレベルの若手を揃え、ついに甲府クラブのルの若手を揃え、ついに甲府クラブの原型が出来上がっていく。

| 1964~1990年

よって劇的に生まれ変わる。強豪アルら招いたデッドマール・クラマー氏にら招いたデッドマール・クラマー氏に

カー界に衝撃を与えた。

この時の日本代表の守護神は保坂司。甲府一高から明治大、さらに古河電工(現ジェフユナイテッド千葉)の電工(現ジェフユナイテッド千葉)の電工(現ジェフユナイテッド千葉)のボールマウスを守っていた。当時の古河は後の日本サッカー界をリードする強豪クラブ。クラマーイズムを注入された保坂の守備は、まさに「最後の砦」と呼ぶにふさわしいものだった。しかし保坂はソ連との試合で相手下しかし保坂はソ連との試合で相手下

表の正GKの座こそ譲ることになった 首を複雑骨折する悲劇に見舞われる。 育を複雑骨折する悲劇に見舞われる。 それでも右手首が固定されたまま動か ないハンディを猛練習により克服。代



【写真提供 ヴァンフォーレ甲府

ものの、現役を続行する

勝ちっぷりだったのは、サッカーファ キシコを破るという、実力を証明する なって結実する。 3位決定戦は地元メ キシコ五輪で銅メダルという快挙と ンならご存知の通りだ。 一方、クラマーのサッカーは次のメ

属する古河をはじめ東洋工業、三菱重 ヤンマー、名古屋相互銀行の8チーム 工、八幡製鉄、豊田自動織機、日立本社、 上げた日本サッカーリーグだ。保坂の その流れを作ったのも、東京五輪の 時を同じくして、甲府クラブも誕生 昭和40(1965)年に産声を

甲斐の野武士集団は翌41(1966) リーグ加入を目指し、予選を戦うこと 洋服店経営者までいる多彩な顔触れ となる。 教員、公務員、会社員、住職、板前 日本リーグへの登竜門である関東

た。 クロバスを提供するサポートぶりだっ どの経費のほか、移動にも会社のマイ 営んでおり、持てる私財を甲府クラブ に注ぎ込んだ。遠征費やユニホームな 大工学部)と進んだあと、建設会社を 川手は甲府中から山梨工専(現山梨

常に行動を共にするイレブンの結束

2016

たした。 勝で突破。 は強く、関東リーグの予選4試合は全 晴れて関東リーグ入りを果

保坂の指導のもと「全日本並みのト の監督兼選手の座に就いたのが保坂 リーグへの挑戦権をつかんだが、その 順位を上げていき、この間3度1部 続く黄金時代の基礎が築かれた。 レーニングを積んだ」ことで、この後 第7回リーグまで、8・5・3位と 昭和42 (1967) 年、甲府クラブ クラマー氏から直接薫陶を受けた

が感じていることだろう。

壁は厚く跳ね返された。 だが昭和60 (1965) 年、チャン

その熱きスピリッツはプロ化へと舵を リズムを貫きながら存続の危機を何度 及ぶ日本リーグの歴史の中で、1部 梨のサッカーを支えていった。17回に クラブ)」の伝統が絶えることはない も切り抜けた「赤と白のFCK(甲府 字架を創設時から背負い、アマチュア から陥落したらクラブ解散」という十 カー指導者として県内に散らばり、山 た。こうした甲府クラブ〇Bが、サッ 替え戦まであと1歩のところまで行っ の強化が表れリーグ4位に浮上。入れ ことはなかった。しかし「在籍リーグ リーグ昇格の悲願はついに達成される スが来る。翌年に控えた「かいじ国体」

> 切った「赤と青のVFK(ヴァンフォー を見守り続けるサポーターなら、誰も 格と昇格を繰り返しながら、戦い続け てきた不屈の精神に現れている。甲府 レ甲府)」へと、確実に連なっていった。 それはJFLからJリーグの間で降



▽「甲府サッカークラブ ヴァン 《参考文献》 甲府サッカークラブOB会) み」(平成27年 ヴァンフォー フォーレ甲府 レ山梨スポーツクラブ FCK

創立50年の歩

ク25年」 27日~3月16日付) (山梨日日新聞 平成2年2月

▽「情熱!青春譜 サッカー甲府

▽「甲府クラブから∨甲府へ 世紀の物語」 *

6日~10月6日付 (山梨日日新聞 平成27年4月

明治安田生命J 11

		2na	スフ	ーン		
節	試合日時	対戦相手	会	場	中継情報備考	試合結果
第1節	7/2(土) 18:00	ヴィッセル神戸	HOME	中銀スタ		
第2節	7/9(土) 19:00	FC東京	AWAY	味スタ	NHK BS1	
第3節	7/13(水) 19:00	ジュビロ磐田	HOME	中銀スタ	浜松エフエム放送	
第4節	7/17(日) 18:00	鹿島アントラーズ	HOME	中銀スタ	1 0 F	
第5節	7/23(土) 18:00	名古屋グランパス	AWAY	パロ瑞穂		
第6節	7/30(土) 18:00	浦和レッズ	HOME	中銀スタ		
第7節	8/6(土) 19:00	川崎フロンターレ	AWAY	等々力		
第8節	8/13(土) 18:00	アルビレックス新潟	HOME	中銀スタ		
第9節	8/20(土) 未定	サンフレッチェ広島	AWAY	EZA		
第10節	8/27(土) 未定	大宮アルディージャ	HOME	中銀スタ	-	
第11節	9/10(土) 未定	ガンバ大阪	AWAY	吹田S		
第12節	9/17(土) 未定	ベガルタ仙台	HOME	中銀スタ		
第13節	9/25(日) 未定	柏レイソル	AWAY	柏	1 8 4	
第14節	10/1(土) 未定	横浜F・マリノス	HOME	中銀スタ	l m	
第15節	10/22(土) 未定	アビスパ福岡	AWAY	レベスタ		
第16節	10/29(土) 未定	湘南ベルマーレ	AWAY	BMWZ	LEB	
第17節	11/3(木·祝) 未定	サガン鳥栖	HOME	中銀スタ	1-1-5	

窪田凌士君、長沼拓実君(主将)、保坂司氏(昭和30年卒)、小林モナさん、 久慈有梨愛さん。(司会=小川 朗・昭和53年卒)

の準優勝の前に広島国体でも3位になってい それが敗因のひとつでしたね。でも北海道 受サッカ 高校長室



いつでも横に入り、前に出るようにしろと。 た。ボールを取ったら前に3人出ろ、と。そして めて、みんなで守るサッカーをしよう」となっ 戦術なんかやっても身につかない。みんなで攻 集めチーム。それでみんなで話し合って「今更 からサッカーやってたのは3人しかいない寄せ 書かれたのが奮起のきっかけでしたね。1年生 ●保坂 当時は12人しかいなかった。「甲府 一高と言ったら1回戦ボーイ」なんて新聞に

負けたことないから、いけるぞ」と言われてそ か?」とタガがゆるんじゃった。 れまで無欲で来たのに「勝てるんじゃない 駆けつけた先輩たちから「刈谷ならこれまで ました。ただ、決勝の相手が刈谷(愛知)で 出して「あんな戦術があるのか」と話題になり 行けた。勝ち上がっていくうちにマスコミも騒ぎ ているうちに関東大会も勝ち上がって、国体に ○で勝って波に乗った。無欲でがむしゃらに戦³ のチームがまだ出来上がっていないうちに1対 り開催日程が早まったのも幸運だった。韮崎 その年は北海道の国体だったために例年よ

しつかり勉強してきましたね? ざいます。みなさん、保坂先輩のことは 本日はお集りいただきありがとうご

自信なさそう)。 サッカー部 ハ、ハイ…(一同、ちょつと

保坂先輩、お願いいたします。 当時のことをうかがうことにしましょう。 - まずは先輩から、北海道国体準優勝

は人生の縮図だよ」というのがある。確かに も役立った。 も80近くなってよく分かる。サッカーは人生に に素早く対応していくことが大事だな、と私 サッカーも人生も瞬間的に変わっていく。それ クラマーさんのもうひとつの言葉に「サッカー

が来てからじゃ遅い。習慣的な能力を我々は のか、瞬間的に判断しなくちゃいけない。ボール シュートするという課題を出してきたとする 習する。トラッピングなんてのは基本。 感性と呼んでいる。その感性を磨くために練 ダイレクトでシュートするのか、ダイビングする ボールが再度入ってきたら、トラップするのか うものじゃない。コーチや指導者がパスをして 練習は今日の課題をこなしていけばいいとい

ル前でその時の状況に応じて、瞬間的にプレー ら、キーパーやディフェンスに読まれちゃう。ゴー ター)もそう。無意識のうちに瞬間的に判断 ミア(リーグ)で優勝した岡崎(慎司=レス してプレーできるから決まる。頭で考えていた それをいかに応用するのかが感性。(英)プレ がたし」という評判は生きていました ましたから、大学に進んでも「甲府一高侮り

入れたことで野球、バレーなどにも広がったん おっしゃった。で、サッカーにリーグ方式を取り らなければ。そのためにはリーグを作るべき」と 武士道だけだったけど、これからは文化を作 わけです。で、クラマーさんが「日本のサッカーは 招いて、今までになかったサッカーが入ってきた デトマール・クラマーさんを日本サッカー協会が

よく言いました。 み重ねていく。それを私は誇りに思っていると をすべきか、と考えて翌日も新たに努力を積 書く。今日やったことを土台にして、今日は何 残してくれた。日新というのは「日に新た」と も『ボーイズ・ビー・ジェントルマン』という言葉を ある。これは昔から伝わっている。クラーク博士 言ってたのが「私の母校には日新鍾という鐘が 大学でキャプテンやってた時に、後輩にいつも

生かされている。ともあれ、自信を持てや。一 その精神は、私の人生、今の社会生活にも

できるようにしなくちゃいけない

ああいう感性を磨かなくちゃいけない。練習

で、私が(明治)大学4年の時に、ドイツから

ち負けは決まる。

いる選手がいるチームは強い。それでチームの勝 合、準備のない選手は必要ない。準備ができて の裏で、ずっと見て学んでいた。準備のない試 い。お手本は一人か二人しかいなかった。ゴール

ころなんですよ。だから120%まで積み上げ 合では、実力の70%を発揮できるかっていうと めていって、そういう感性が出てくる。それで試 0%、「苦しい、限界だ」っていうところまで極 だから練習は大事。辛い練習しないと。19

たことをやれれば。 みれば、今からやって十分間に合うよ。他の チームより気合は入ってるんだから。今日聞い 君たちはこれから3大会。聞いた通りやって ていかなきゃいけない。

ションのキーパーなんて、誰も教えちゃくれな

習のための練習になっちゃいけない。私のポジ タイルが出てくる。3対3でやるにしても、練 というのは準備。積み重ねていくと、自分のる

高は日新だぞ、と。

●長沼 先ほど当時のサッカーの基盤がFWは攻めるもんだ、DFは守るもんだ、というサッカーから全員サッカーに切り替えた話がありましたが、新しいことをやるときのチームの雰ましたが、新しいことをやるときのチームの雰ましたが、新しいことをやるときのチームの雰ましたが、新しいことをやるときのチームの雰囲気が下いたが、新しいことをでしょうか。

●保坂 それはもう、皆で決めたことだから。コーチとか、上から言われた話じゃないから。

相手よりシュートを1本でも多く打てるかを相手よりシュートを1本でも多く打てるかをる。1つのボールに対し3人はいるようにする。さらにその周りに、4人がいるようにする。これさらにその周りに、4人がいるようにする。これだけなんです。あとキーパーは1対1だともうだけなんです。あとキーパーは1対1だともうで消してくれれば、こちらは半分に集中できる。そういうフォーメーションをみんなで考えていくことが大事。

長沼今はいろんな情報があります。

●保坂 それに惑わされすぎちゃダメ。閃いたら瞬間的に行動に移せるか。ワイパーでいいたら瞬間的に行動に移せるか。ワイパーでいいから動けと。立ち止まってどうしようどうしようじゃ困る。ボールを持ったら足を止めるなよ。動動くことによって全員攻撃が始まるよと。動かなんで、頭だけで考えてるんじゃダメ。キャプケンはみんなに「足は止めるなよ」と常に言わたきゃ。

●窪田 ドイツのコーチが来て、いろいろと教わったというお話がありましたが、日本のサッカーとの一番の違いは何でしたか。

●保坂 それはね、やっぱり体の使い方が違った。体を入れるとか、ぶつけるとか。そういう動た。小を、日本選手もようやくできるようになってきた。ブラジルなんかでは道路でやるサッカーで体を使ってる。ボールコントロールは日本選手はもうできているけど。

●窪田 それができるようになるには、試合てくるということですか?

事。敵より一歩早くボールに寄るとか。

●谷本 なかなか集中力がもたなんいですが、どうしたらいいのかをお教え願えるとありが、どうしたらいいのかをお教え願えるとありする。

●保坂 人間の集中力が持つのは、2時間が 頭を休めたりするのは大事。相手に意識を変 頭を休めたりするのは大事。相手に意識を変 頭を休めたりするのは大事。相手に意識を変

●谷本 切り替えですね。

●保坂 それはチームも一緒。ここという時 ●保坂 それはチームも一緒。ここという時 に、全員が集中できるようにするのが大事。 に、全員が集中できるようにするのが大事。 られた人間が、すぐにカバーに行くけど、チーム全体が浮足立つ必要はない。相手に持たせても、攻めさせないようにして、チーム全体を立て直していけばあわてる必要はない。押されてるからボール取ったらすぐ攻撃しろ、なんて言ってカウンター食らったら元も子もない。 フィールドにいる人がしっかり考えてプレーできるようにしないと。

> ●久慈 みんなで話し合って決めたっていう 話がありましたが、一生の友情になりました

●保坂 うん。その友情っちゅうものは深いものがあるよ。

●小林 これからインターハイも控えていて、 器を残すことで必要なことっていうのはなんで まか?

●保板 結果は後からついてくるものっちゅう人がいるけど、まさにその通り。結果を残すために、というより、結果にこだわらないことでために、というより、結果にこだわらないことで結果がついてくることがある。サッカーで遊んでらん。そうしたら見えてくるものがある。自分で練習やる前に、リフティングでもなんでも、遊びをやるとか。そうすると、どうすればも、遊びをやるとか。そうすると、どうすればも、遊びをやるとか。そうすると、どうすればも、遊びをやるとか。そうすると、どうすればも常が入ってきて、自分を見失うこともある。そういう時は何も考えない。僕が寝る時、もう一人の保坂司がそこにいる。そのもう一人と対話するんです。

自分を鍛えた。
普通の人はちょっとおかしいとか、そんなことできないとかいうけど、できるんだよ。そのとできないとかいうけど、できるんだよ。その

勝つというのではなく、フェアプレーに徹してはカーをしましょう。フェアプレーに徹しましょか。根手を蹴っ飛ばしてものではなく、フェアプレーに徹しましょり。

いってほしい。

●内藤先生 甲府クラブでお世話になって、ました まあ、兄が一高なんですが、そこに諸先輩、司ました まあ、兄が一高なんですが、そこに諸先輩、司身の皆さんばかりで・・・。鶴城クラブが(甲府クラブの)前身であることを実感しますよね。ラブの)前身であることを実感しますよね。ラブの)前身であることを実感しますよね。ため、結 (甲府一高)から始まっている。美しい、フェアなため、結 (甲府一高)から始まっている。美しい、フェアなため、結 (甲府一高)から始まっている。そういうことを改めて感じて、これから(の指導に)確信というかめて感じて、これから(の指導に)確信というかめて感じて、これから(の指導に)確信というかが表してきた気がします。 一緒に頑張っていきたいと思います。

サッカーのフィールドが4面も5面もあったり め。美しいサッカーができれば胸を張れる。ドイ サッカー、出ないのもサッカー。素晴らしいサン 財産を得られるということを、後輩につなげて ということができる。サッカーを通じて、大きな 育んで、人生を磨いていく、人間を磨いていく げたのが発端だった。サッカーを通じて友情を (三郎)と、皆でプロチームを作ろうと声を上 沼健さん、杉山(隆一)、釜本(邦茂)、川淵 られた。それを日本に作ろう、とやったのが長 で、あらゆるスポーツが集まっている施設を見せ ツのデュルスブルグキャンプに行ったとき、州立の ことが大事。1回戦で負けてシュンとしちゃだ カーができるよ、という自信を持ってやっていく いく。ワールドカップやオリンピックに出るのも 的なものだけど、そうした評価はずっと続いて これは勝ちなんです。試合の勝ち負けは瞬間 しいぞ、フェアだぞ。」という評価を得られれば ●保坂 試合に負けても「一高の試合は美

寄稿文1

精神科医になるまで、そして精神科医とは

埼玉医科大学 神経精神科・心療内科

太田 敏男教授

(昭和45年卒)

寄稿文2

親子で一高

松木 茂/数野 遼

(昭和53年卒)

(平成 19年卒)







精神科医になるまで、そして精神科医とは

神経精神科・心療内科(昭和45年卒) 太田 射男 教授埼玉医科大学



うそう、そういうものがあった。 そのときのミッションがこの原稿の げな笑顔で近づいて来た。そして、「今 後輩の女性精神科医さんが意味あり た勉強会後の懇親会のとき、高校の 依頼であった。「日新鐘」……? 日はミッションがあります」という。 かしい響きである。 先日、 3月のある日、ちょっとし

まい。特に、精神科医が若い人たち 知で私に原稿依頼が来たわけだから、 まず私は精神科医である。それを承 精神科という職業には触れざるを得 さて、何を書くか。何はともあれ、

からしばしば受ける質問は「どうし

大合併で身延町に吸収されてしまっ

る。読者はむしろそちらに興味があ て精神科医になったんですか」であ とも役立つ方がいいだろう。 う考えるべきかについて、多少なり 彼らが現在をどう過ごし、将来をど 高生にも配布される。だとしたら、 るかもしれない。日新鐘は現役の一

できるだけ触れよう。また、 きかについて考えてみる。 生時代はどういう位置づけであるべ 結びに、老精神科医の目線で、高校 いて、少し語ってみたい。そして、 医の日常や精神科医の何たるかにつ 医に興味のある読者のため、 志すことに関連するエピソードには と思う。その中で特に、精神科医を での私の来歴を簡単に御紹介しよう そこで、まずは精神科医に至るま 精神科 精神科

たりは下部町といった。今は平成の 公ゆかりの隠し湯「下部温泉」に近 い集落の出身である。当時、 私は身延山の北東に隣接する信玄 、そのあ

科医としてやって来られたのは、両

親の力がいかに大きかったか、最近

つくづく思う。

という感覚である。私が今まで精神

ている。親は医者とはまったく関係 家で、裕福ではなかった。 がない。まったく目立たない田舎の

づくそう思う。一言では言えないが、 今でもおそらく大きな影響を与えて 生活のためにいろいろな仕事に追わ ところであろうか。こうした親の姿 労があっても命さえいればなんとか に味方でいてくれたこと、少々の苦 わけ母親は、当時はわからなかった れていた。しかし、私の家庭、とり えられたように患者を支えればいい 資質の支柱を構成している。親に支 勢は、現在の私の精神科医としての なるという健全な楽観性、といった 無償の愛情を注いでくれたこと、 いくつかポイントを挙げるならば、 いる。精神科医になってから、つく のであるが、精神科医としての私に 母親も普通の田舎のおばさんで、 常

土石流の直撃を受け、全壊した。そ 中3の秋、下部の家は台風による

> 外に引っ越すこととなった。 のため、中学は下部のまま、 甲府郊

か甲府一高に入学した。 さて、私は田舎の中学からなんと

吹く幸運にも恵まれた。 に遭遇し、応援団員としてラッパを ト形式)までいた。2年の夏には いたので、その流れで同じ部にはい 一高の歴史上ただ一度の甲子園出場 た。 部には2年の発表会(コンサ 中学でブラスバンド部にはいって

を成し遂げたのは、今でも自慢だ。 力があるわけでもないこの私がそれ での104キロを踏破した。そう体 思い出である。私は3年間、 そして受験態勢にはいった。 強行遠足は、高校時代の懐かしい 小諸ま

出していなかったため、そもそも文 間で比較的平均しており、どれも突 の言葉」みたいな本を買い、読み漁っ 本屋に行って、進路に関する「先輩 たことを思い出す。私の成績は科目 進路は決まっていなかった。当時、

系か理系かで迷った。あえていえば 英語が得意科目であったため、その んとなく浮かんで来たのが、医師の イメージであった。漠然とあこがれ た。その後、そのイメージはだんだ た。その後、そのイメージはだんだ

感謝している。

と不遜な……と思われたかもしれな 医学部は難関である。受かるかどう 今になって思えば当然の話である。 かの方が問題」というものだった。 なんとかなる」「むしろ入れるかどう た。答えは「アルバイトと奨学金で えで、経済面についてうかがってみ しゃった。そこで、自己紹介したう だった方が模試の試験監督でいらっ 輩のお兄さんで東大の医学部の学生 だった。そこにたまたま、部活の先 かを飛び越して経済面の話とはなん 本代とかの経費もかかるという噂 も生活費はかかる。また、医学部は 違いに安かったのだが、それにして 国立大学の学費は現在と比べると桁 問題は経済面だと思った。当時、

か何日後だったか記憶にないが、結に希望を言ってみた。すぐにだったて行った。ある日、思い切って父親だんだんと気持ちは医学部に傾い

な決断だったと思う。父には本当にであった。今になってみると、相当局出て来た答えは「頑張ってみろ」

しかし、諸事情から、関東近辺の 国立にしか行けない。ということは、 エニュにしか行けない。ということは、 大。また上述の先輩にも、私の模試 た。また上述の先輩にも、私の模試 た。また上述の先輩にも、私の模試 た。また上述の先輩にも、私の模試 の成績を話したとき、それくらいで あれば目指していいと言っていただ あれば目指していいと言っていただ

受験は見事に失敗した。医学部は受けた仲間の多くは合格した。学力でしたったことはもちろんであるが、不足だったことはもちろんであるが、不足だったことはもちろんであるが、でみてつくづく思う。塾にもまったく行かず、先輩に勉強のしかたや受なかった。この私の弱点は、その後の私の人生においてときどき繰り返されることになる。

に行った。
て、すぐに駿台予備校入学の手続きは理Iに合格していた)の情報を得は理Iに合格していた)の情報を得

予備校では、寮にはいった。千葉県の下総中山にある大きな寮であった。しかし、こういう集団生活は自た。しかし、こういう集団生活は自た。しかし、こういう集団生活は自た。しかし、こういう集団生活は自なって響くパタパタというスリッパなって響くパタパタというスリッパなって響くパタパタというスリッパなって響くパタパタというスリッパなって響くパタパタというスリッパなって響くパタパタというスリッパなって響くパタパタというスリッパなって響くパタパタというスリッパなって。部屋は4人相部屋であった、時神は良く、楽しい面もあったが、時には距離の近いところでの自我のぶには重視がでは、寮にはいった。千葉は自力がある大きな表には、寮にはいった。千葉は自力がある大きな表にはいった。

を定を走った。夜中でも平気でやった。 定を走った。夜中でも平気でやった。 こうして肉体的疲労を引き起こすこ とで入眠できることを知った。昼寝 で体調が回復することも覚えた。も うひとつ、私を精神面の疲労と緊張 から救ってくれたのは、千葉県にあっ から救ってくれたのは、千葉県にあっ た友人の親戚への外泊であった。な んと図々しいと、今になって赤面す

> 読むと、そんなことが書いてある。 になかく迎えていただいた。まぶしたたかく迎えていただいた。まぶしたたかく迎えていただいた。まぶしいくらいに幸せそうな家庭であった。 この外泊は本当に支えになった。そこの外泊は本当に支えになった。そこの子備校の寮での環境変化による不眠と精神的疲労・緊張、苦しみ、る不眠と精神的疲労・緊張、苦しみ、る不眠と精神的疲労・緊張、苦しみ、る不眠と精神的疲労・緊張、苦しみ、たりが、私の精神科に対する興味のかしが、私の精神科に対する興味のかしが、私の精神科に対する人という。

翌年、無事東大理Ⅲに合格した。当時、我が家には直通の電話はなく、当時、我が家には直通の電話はなく、 「農集電話」という一種の地域団体加 大電話がひかれていた。合格発表の日、 母親は一人で家にいた。私は渋谷の公 衆電話から農集電話のオペレーターに 電話し、合格の伝言を依頼した。母親 はオペレータから合格を知らされ、家 の中をぴょんぴょん跳ね回って万歳し たと後から聞いた。今でもこの姿を想 たと後から聞いた。今でもこの姿を想 なるのを覚える。

*
*
*

も御主人が隣りの身延町出身(奥様

も山梨県人)ということもあり、思

た。結局、

警察が来て精神科の病院

教養学部(駒場)時代は、私にとって、解放感と高揚感の時代だった。 サークルは、混声合唱団に所属した。 サークルは、混声合唱団に所属した。 7月に授業が終わると、クラスメートと新宿のデパートの屋上でビール がヨッキをあおった。将来の自分は 夢に満ちていた。キーワードを挙げれば、高揚、純粋、連帯、開放、解放といったところだろうか。私の人生の中でもひときわ輝く、楽しい時期であった。最近同窓会等の形で仲期であった。最近同窓会等の形で仲間が復活している。

1年目、ちょっとした事件が起こった。下宿の隣人が夏休みを過ぎたあたりに精神病を発症したのだ。 下宿は賄い付きだったので、その男下宿は賄い付きだったので、その男子学生と一緒に大家さんの台所で食事をしていた。文字通り、同じ釜の飯を食った相手だった。今になって思えば、統合失調症である。ある夜、思えば、統合失調症である。ある夜、思えば、統合失調症である。ある夜、ポョッとして口論のようになったので増宅直後、ドアがノックされたので増ですると、その学生が傘をフェンシングの剣のように構えていた。を覚えている。その後、大家さんがを覚えている。その後、大家さんがを覚えている。その後、大家さんがを覚えている。その後、大家さんが

に合唱団から退団することになった。 らいろいろと興味深い話が聞けた。 らいろいろと興味深い話が聞けた。 かんかののとないがあると、 1 年間とともに、 2 年目の終わりころか 2 年間とともに、 2 年間の終わりに称いると、 1 年間では、何年か上の先輩に精合唱団では、何年か上の先輩に精

**

そして、教養学部から医学部に進学した。上述のような体験や見聞は、学した。上述のような体験や見聞は、なかった。精神科はあまりに医者っなかった。精神科はあまりに医者っなかった。特神科はあまりに医者ったるのに、もったいないではないか。そんな感じがしたのである。

何年かが経過し、卒業の時が来た。 私は、消去法で、内科のローテート にいったん籍を取得した。外科は、 外であった。ほかの小さい科もなん 外であった。ほかの小さい科もなん なく不安だった。精神科は興味は となく不安だった。

かった。人数も多いので、安心では内科に行く連中は優秀な学生が多神科への興味は残っていた。それに、

のでその日は外出していた。

に入院になったと聞いた。私は辛い

なら……人生、一度きりではないか、 適性があるのかもしれないと思った。 ときどき「お前は言葉の使い方が実 いの段階でえいっと決めた方向性で 結論ではなく、6:4か7:3くら に考えて10:0とか9:1に至った に行くことに決めた。決して、考え ちまえ! そういう感じで、精神科 初志貫徹! と言ってくれていた。そうか、それ の進路について、「何をしてもいい」 て、もしかしたら、精神科は少しは と言われた。そんなことも思い出し それしかないように思ってしまう にうまい。会議でお前が発言すると、 た。私は合唱団時代、ある仲間から あるが、馬群に埋もれそうな気がし 先輩も熱心に誘ってくれた。親は私 えいっ、精神科に決め

**

あった。

たと言えよう。もちろん、数々のいりである。要するに、その都度私なりである。要するに、その都度私なりに考え、周囲にも相談して情報をめて前に進む、自分で決めたからには一生懸命やる、その繰り返しだったと言えよう。もちろん、数々のいたと言えよう。もちろん、数々のい

うか。
て、案外そういうものではないだろあったわけではない。進路決定なんあったわけではない。進路決定なんりは会いはあった。しかし、特別にい出会いはあった。しかし、特別に

多くの人は、精神科医は医者よりセンスである。

ただく。紙面がないので、ごくエッ

精神科医について少し語らせて

温もりをもって患者と心で繋がって エント」(来談者)と呼ぶが、我々は「患 心理カウンセラーは相手を「クライ と仮説検証をしなければならない。 では、冷徹な自然科学的な目で観察 いなければいけない。しかし、他方 種の二重の見当識がある。一方では、 我々の商売である。ここには、ある ば色眼鏡を通して心を理解するのが に「病気」というフィルター、 理解するのは必要であるが、基本的 素養を基盤としている。患者の心を 分野の人間であって、自然科学系の れは違う。精神科医は基本的に医学 持っているようである。しかし、そ も心理学者に近いようなイメージを いわ

者」と呼ぶ。

虫れない。 張るものがある。ここでは詳細には神に関連した脳科学の進歩は目を見神に関連した脳科学の進歩は目を見

基本は自然科学にあるにしても、実際の臨床において、トータルに心を理解することが非常に重要であり、を理解することが非常に重要であり、を理解することが非常に重要であり、とがある。精神病理学、古典的心理学、社会心理学、集団心理学、祖織心理学、人間学等さまざまな関連分野の知識で説明と仮説検証を行う。さらに、一般常識、自身の個人的体験、あるいは文学や映画などを通じた他者のいは文学や映画などを通じた他者のいは文学や映画などを通じた他者のいは文学や映画などを通じた他者のいは文学や映画などを通じた他者のもる。要するに、あらゆる資源を動める。要するに、あらゆる資源を動める。のである。

そうした多くの要素の中で、心を理解し心で繋がるためにとりわけ重理解し心で繋がるためにとりわけ重理解し心で繋がるためにとりわけ重理解し心で繋がるためにとりわけ重理解し心で繋がるためにとりわけ重理解し心で繋がるためにとりわけ重理解し心で繋がるためにとりわけ重理解し心ではない。ところで、患者はそもそも苦しいから精神科に来る。そもそも苦しいから精神科に来る。それたちに共感し続けたら、精神科に来る。苦しくなるに決まっている。端る。苦しくなるに決まっている。端

的に言えば、患者と一緒に苦しむことでお金をいただくのが精神科医ととでお金をいただくのが精神科医とそれを行うという点が肝要である。
とユーマニズムでなく、職業でそれにより、安定して時間がとれ、それにより、安定して時間がとれ、
これの向上に専念でき、責任感もスキルの向上に専念でき、責任感もくなる。

このことから想像がつくと思うが、 精神科医は、自分の心のバランスを というか、自然にそういう工夫をす というか、自然にそういう工夫をす というか、自然にそういう工夫をす

**

集団としては短い時間であったが、

し意見を述べてみよう。 験や精神科医としての経験から、少代はどういう時期なのか、自身の体代はどういう時期なのか、自身の体

一方では適切に周囲に配慮しつつ、たるのである。生活して行く中で、作るのである。生活して行く中で、のである。生活して行く中で、と思う。自分の価値観の核心部分をと思う。自分の価値観の核心部分をと思う。自分の価値観の核心部分を

を増やせる時期は一生ないだろう。時期である。こんなに短期間に知識

ずむのを眺めたいものである。

第2に、やはり一心に勉強すべき

他方ではほどほどに周囲を押しのけて自分を主張する。そういう努力をするべき時期である。しかしながら、本熟な16~18歳の時期に、自分の核心部分を作るそうした作業が完成するはずもない。むしろ「作ろうとする苦闘」自体が、核心そのものなのる苦闘」自体が、核心そのものなのかもしれない。

集団は重要な意義を持つ。私の周囲集団は重要な意義を持つ。私の周囲にも、さまざまな個性の人がいた。 放や影響を受けた。田舎の中学から 一高にはいったばかりの私には、大 一高にはいったばかりの私には、大 ても都会的に見え、新鮮であり、ま でも都会的に見え、新鮮であり、ま

まであった。私は社交的な方ではなかったし地元出身者でもなかったなかった。それもあって、部活がえなかった。それもあって、部活がに重要な場になったのだ思う。3時に重要な場になったのだ思う。3時に重要な場になったのだ思う。3

時と寸分たがわぬ霊峰が静かにたた るときには、一高時代とはすっかり はっきり見えなかった。今度また来 念ながら、今日は薄曇りで富士山は 甲府郊外の老人ホームに入所してい 皆無でなくかつ元気が出るのであれ 変わってしまった街の景色の上に当 本線で東京に戻るところである。 る100歳の母を姉と訪問し、中央 ば、それでよいと思う。 がに妄想では困るが、実現可能性が てあまりこだわらなくてよい。さす 現実との整合性や実現可能性につい 夢は複数でもよい。この段階の夢は、 ギーの出る夢を持つ時期であろう。 高まったこの時期でないとできない。 憶力・持久力に富み、かつ理解力も 要である。この作業は頭が柔軟で記 い時期に貪欲に取り込む作業は、必 ここまで書き上げた今、ちょうど、 第3に、月並みであるが、エネル

その趣旨もわからないではない。し詰め込み教育という批判はあるし、

かし、将来知的作業に使う素材を若

親子で一高

松木茂 (昭和53年卒

うか。卒業してから40年近く経つが 見える。庭に出ていると、校内放送や 今なお日常の中に一高がある。 相川を挟んで100メートルほどだろ も、聞こえてくる。学校までの距離は グランドで練習する野球部の掛け声 私の家の二階からは、一高の校舎が

30年に一人のサイクルで、一高生がい あった。私・茂は昭和53年卒。娘・梢 生であり、戦後第1回の卒業生でも 23年卒・旧制甲府中として最後の卒業 族三人の名前がある。父・弘は、昭和 68回を数える戦後の卒業生の中に、家 わったのが、1948 (昭和23)年。 学校から新制甲府一高へと名前が変 たことになる。 子は平成21年卒。我が家では、およそ 戦後の学制改革により、旧制甲府中

なった時代。社会の変化とともに、一 が豊かさを感じた時代。バブル崩壊後 だった時代。高度成長を実現し、誰も 敗戦の焦土の中で、生きることに必死 過ごした一高時代は、あまりにも違う。 の襷を繋ぎ続けてきたが、それぞれが 停滞により、 松木家として、三代にわたり一高へ 若者が希望を持ち難く

> 改めて振り返ってみたい。 何が残り、何が変わっていったのか 活をお話させて頂く中で、今の一高に 来への響」。我が家・三世代の一高生 高も変わっていった。 今年の東京同窓会のタイトルは、「未

員は約300人で、全県下から俊才が 校から、旧制中学へ進学する者が限ら 学したのは、昭和18年の春。高等小学 集まっていた。 一つのステイタスだった。一学年の定 れていた当時では、甲中への進学は、 父が、穴切小学校から甲府中学へ入

だったと言う。

結局作っていたのは、木製の飛行機

ている。戦争へ赴くことが男子の本懐 され、行進の練習や射撃訓練が行われ と呼ばれる軍事訓練が重視されていた の学校では、 年齢は19歳に下げられている。戦時下 り、戦局は悪化の一途を辿る。この年 が、甲府中学にも陸軍から将校が派遣 の10月には、学徒出陣が行われ、徴兵 ミッドウエー海戦が戦いの分水嶺とな 太平洋戦争が始まって二年。前年の 教科の授業の他に、教練

すぐにベニヤ板しか材料が無くなり、 頃は、金属で組み立てられたものが 飛行機の組み立てに従事した。最初の いった。父は、飯田にあった自工で、 三工場に別れて、作業に駆り出されて 甲中生は、明電舎・郷軍・自工という なり、軍需工場への勤労動員が始まる。

策と合致した鍛錬の場となっていた感 けるだけ歩くというものだが、個人的 遠足は、自分の体力の限界に挑み、歩 力を付けることは、心身ともに強い男 には強行遠足が実施された。脚力や胆 に米はなく、芋ばかりの暮らしである。 が頻繁に行われるようになるが、すで 厳しさをなお増し、農家への勤労奉仕 ぶれは流動化していった。食糧事情は 予科練を受験する者もあり、学年の顔 る者が増える一方、航空学生養成所 な身体の訓練の場であったものが、 子=兵士を育成すること。本来の強行 この頃は、都会から疎開して編入す そんな戦時下にあっても、18、19年

の時代を物語っている。の道は戦場に通ず」という一節が、この道は戦場に通ず」という一節が、こ

上った。

終戦間際の7月6日深夜、甲府空襲 により一高も被災、本館と講堂、武道 場だけを残して焼失してしまった。終 戦のこの年、学校には東京から陸軍大 学校が疎開しており、本館の一部と講 堂を明け渡していた。B-29は、わずか 立を明け渡していた。B-29は、わずか

> 敗戦となり、学校へ戻っても授業は 再開されず、半年ほどは校舎の片付け ばかりに追われる。また学ぼうにも、 戦前から180度転換する民主主義に よる教育のあり方が、まだ何も確立さ れておらず、教科書も何もない有様 だった。

から戻ってきた者や、疎開したまま学21年の春以降。従来の生徒に、予科練ようやく学校の体裁が整ったのは、

校に残った者を加えると、同級生の数は350人ほどになっていた。父の話によれば、まともに勉強したのは、中学5年のうち一年半くらいとのこと、学6年のうち一年半くらいとのこと、特に英語は、敵国語ということで19年に授業が停止されたままだったそうで、戦後になって少しかじった程度らて、戦後になって少しかじった程度らしい。

学制改革により、父の学年・昭和18年の入学者は、昭和23年と24年に別れて卒業していく。旧制中学は5年制であったが、新制高校は3年制。二つのあったが、新制高校は3年制。二つのあったが、新制高校は3年制。二つのの卒業生となるか、選ぶことが出来た。父達の学年の集まりは「山紫会(さんしかい)」という名前だが、これは23年卒の3と、という名前だが、これは23年卒の3と、という名前だが、これは23年卒の3と、のだ。

未来を描くことよりも、「明日をどのように生きるか」だけしか考えられなかった時代。父たちの世代が、一高に対して強い思い入れがあるのは、そこに、苦難の時代を必死な思いで生きた仲間たちがいたからなのだろう。戦

高生たちの間には流れている。

85歳になった父だが、少し耳が遠くなったくらいで、まだまだカクシャクなったくらいで、まだまだカクシャクなったくらいで、まだまだカクシャクとしている。昨年も、この東京同窓会受がある。毎月二回、山紫会の仲間達受がある。毎月二回、山紫会の仲間達を無尽を開き、旧交を温めているが、年々鬼籍に入る方が増えるに従い、少年々鬼籍に入る方が増えるに従い、少年々鬼籍に入る方が増えるに従い、少にした仲間は、今でも得がたい友人ににした仲間は、今でも得がたい友人になっている。

* * *

自分の家から近かったことや、父の出た学校ということで、私にとって一島は、小さい頃から身近な存在だった。おそらく無意識のうちに、一高への憧おそらく無意識のうちに、一高への憧れのようなものが、培われていたのだろう。だから、高校受験の時にも、一高以外の学校へ行くような気が全くしなかった。昭和50年は、それまでの一なかった。昭和50年は、それまでの一なかった。昭和50年は、それまでの一なかった。昭和50年は、それまでの一ち、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方のでは、一方ので、一方のでは、一方に、一方のでは、一方





いた通りに一高生となった。

入学式を終えた翌日、日新ホールの前で二年生に呼び止められた。その人の家は、私の家の近くにあり、小学校・中学校も同じだったので、気安く声を中学校も同じだったので、気安く声を

部分を占めることになる、「新聞部」 かないうちに、日新ホールの裏手に あった古い長屋の一角に連れて行かれ た。思えばこれが、私の一高生活の大

との出会いであった。ちなみに、私を勧誘した二年生の名前は、島田敏男さん。そう現在NHKの解説委員としてん。そう現在NHKの解説委員として活躍されている、あの島田さんである。昨年、学校や同窓会の皆様のご協力の下、一高新聞縮刷版が刊行された。昭和23年に始まり現在に至るまで、242号にわたって発行された新聞が、1とんど全て集められている。一つ一ほとんど全て集められている。一つ一の記事には、その時代の新聞部の息遣いが聞こえる。そして今、改めて自分の書いた記事を読むと、悩みぬいて原稿に向かった若き日が、鮮明に甦ってくる。

いる。 大もめになっている。 様である。 号の一面トップに、服装規定をめぐっ わかるものを、少し御紹介してみよう。 ている。 緒となっているのは、単なる靴下の模 イントソックス」を容認するか否かで、 て混乱した生徒総会の様子が書かれて 昭和50年12月に発行された第130 高新聞の記事にも、それがよく表れ 新聞は時代を映す鏡と言われるが、 信じられないことに、 私の現役当時の一高の空気が 当時流行っていた「ワンポ 問題の端

規定には、「華美にならないように」と書いてあるだけで、具体的な決りは何もない。総会では容認派と否認派に何もない。総会では容認派と否認派に分かれて議論が戦わされている。否認派が「伝統ある一高生が、こんな規則くらい守れないとは自覚が足りない」とめ圧的になれば、容認派は「自覚とと威圧的になれば、容認派は「自覚とと威圧的になれば、容認派は「自覚とと威圧的になれば、容認派は「自覚とと成」とやり返している。議論は、題なのだ」とやり返している。議論は、

何か」ということに発展してい「伝彩ある」 高生らしい姿とに

この号の新聞部説には、自覚は持たなければいけないが、伝は持たなければいけないが、伝統を持ち出すことには納得できないと書かれている。この頃の一高は、他校に比べて自由な学校生活であったが、生徒の間で、自由の捉え方というものが真剣に考えられていたことがわかる。記事からは、校訓にある「自主自律」の片鱗を見ることが出来る。

34号の紙面には、応援練習の昭和52年7月に発行された第1

あり方について書かれている。記事を のの人もの生徒が倒れ、救急車で2人 のの人もの生徒が倒れ、救急車で2人 が運ばれている。そして、PTAから 苦情が多数寄せられたともある。もし 今、こんなことが起これば大事件であ り、世間的に考えても、学校を揺るが すような大問題に発展するだろう。

記事の続きでは、倒れる生徒が続出



したことと、親から苦情が増えた原因について言及している。生徒は、四校選抜(この年に東高が新設されている)になって、体力と気力が低下し、そのになって、体力と気力が低下し、そのければいけないのか、納得出来ていなければいけないのか、納得出来ていないと書かれている。

入試制度の変化に伴い、生徒と親の質が変わる。この頃すでに、「一高の伝統」というものは、改めて見つめ直すべき転換点にさしかかっていたことが、記事からも読み取れる。当時これだけの問題が起こりながらも、学校全体として、応援練習そのものを考え直す空気にはなっていない。それはこのす空気にはなっていない。それはこのすのなものとして学校側も生徒も見ており、この時代にはまだ、容認されていたからだと思われる。

席する人の数からも見て取れる。一高 席する人の数からも見て取れる。一高 のでからは顕著であり、同窓会へ出 なってからは顕著であり、同窓会へ出 なってからは顕著であり、同窓会へ出 なってからは顕著であり、同窓会へ出

OBの間で世代間の格差が激しいのは、

和自身の一高生活を振り返れば、やはり新聞部での思い出ばかりだ。授業はり新聞部での思い出ばかりだ。授業にされ、文章修行をさせられたこと。 と。部長の島田さんの家で一晩中缶詰 にされ、文章修行をさせられたこと。 そして長い長い編集会議。原稿の締め そして長い長い編集会議。原稿の締め でして長い長い編集会議。原稿の締め

夏は暑く、冬は凍えるように寒い。今はなき木造の古びた部室長屋には、一高時代の全てが詰まっている。苦労を共にした仲間達とは、今も旧交を温めている。私に、充実した一高生活への門を開いてくれた島田さんには、大

* * *

写した写真がある。娘は幼心にも、こ り壊されることを知り、あわてて学校 の写真を撮りにいった。手元には、当 では、当

> の時のことを覚え ていたようで、「私 は、最初から一高 へ入ることを義務 付けられていた」 と、後年話してい る。

女も高校受験の際訳ではないが、彼

には、一高以外の学校を考えることはなかった。私も父から、「一高へ行け」と言われたことはなく、同じように私と言われたことはなく、同じように私と言われたことはない。同じなく家には、「一高に行かざるを得ないような空気」があり、それを察したからなのである。

長女が受験した2006(平成18)年は、総合選抜制度最後の年。一高・南高・東高・昭和高の四校選抜の中を潜り抜けて、やはり想定通り一高生となった。ただ私の時代とは違い、選抜なった。ただ私の時代とは違い、選抜いたので、一高へ行ける確率は、かなり高くなっていた。

カートに蝶ネクタイ姿の女子の制服を 嫌いな者はいないと、私は確信してい る。この制服を着ると、どんな女子で もかわいく、聡明に見えていた記憶が あるが、自分が年を重ねてしまったこ とで、昔の女子を美化しているに過ぎ ないのだろう。ともあれ、自分の娘が この懐かしい制服を着ることが、何よ りも嬉しかった。一高に思い入れのあ る世代の方には、きっと私の気持ちを わかって頂けるだろう。

入学直後、娘は一本のテープは放っ がら持ち帰った。聞いてみると校歌や がら持ち帰った。聞いてみると校歌や がら持ち帰った。聞いてみると校歌や がら持ち帰った。聞いてみると校歌や

昭和世代の一高男子で、あの吊ス



であるの」である。であるのだった。「応援練習をする意味は何のだった。「応援練習をする意味は何があるの」である。

平成世代には、何も知らされないまま、物事を押し付けられることは、理解されないのだろう。昔とは比べ物にならないほど穏やかな応援団のふるまいでも、ただ横暴としか捉えられない。「これが伝統だから」という錦の御旗が、全く通用しない。

強行遠足も同じで、伝統行事という

より、一年の予定の中に組み込まれた、学校行事の一つという捉え方をする。女子なので、なお意識が低くなってしなうなのは仕方がないが、私の目にはまうのは仕方がないが、私の目には

良が正さりこは、見こして一高へ出れる傾向のように思われる。この受動的な姿勢は、伝統行事ばかり

が新しくなったことだけでなく、学校かけることがしばしばあったが、校舎娘が在学中には、親として一高へ出

の空気そのものが全 く違うように感じられた。PTA の会 に出ても、親から学 だ側への質問は、大 学受験や、学習への 取り組みのことばか りで、その他のこと には関心が及ばな

する親が多いこと」 あたり、「車で伴走 あたり、「車で伴走

> 生から見れば、常識を疑う行為である。 通事情も悪く、子どもを心配する気持 なく、ただただ息子や娘が心配で、付 協力者としてお手伝いをする父兄では が問題になっていたこと。この親達は 過点」に過ぎないように思う。 我々にとって、一高で過ごした時間は、 ることは、不可能に近いかも知れない。 だろう。学校側やOBの努力だけでは、 や親に浸透させることはかなり難しい 足だが、今の時代にその意義を、生徒 ちはわからないでもないが、昔の一高 き添っている人たち。昔に比べて、交 の協力者の下で運営されている強行遠 「一高生」として特別な意識を持たせ 特別な時間」であったが、今は「通 昔とは比べ物にならないほど、沢山

は弓道部に所属し、それなりに楽 しく学校生活を送り、身の丈にあった 大学に進学した。卒業して8年が経っ た彼女に、一高の印象を聞いてみたと ころ、「普通の高校」だそうである。 家族の中に OB が二人も居ながら、若 い後輩に一高の良さを伝え切れなかっ たことを、恥じている。

甲府一高新聞の綱領には、「報道は常に真相を正確、忠実に伝えること」とある。70年前の一高から、現在の一とある。70年前の一高から、現在の一名だけ正確に、忠実に書いてみた。新るだけ正確に、忠実に書いてみた。新清ティブな文章になってしまったことをお許しいただきたい。

最後に、一高生として三人の共通点は何か、探してみた。あるとすれば、それは「自主性」であろうか。父も私も娘も、自分の進路を自分で選んでいること。僅かながらだが、「自主自律」の一高精神がそれぞれに宿っているように思える。果たして、四本目の襷をうに思える。果たして、四本目の襷を勢ぐことが出来るかどうか、今はまだわからない。



親子で一高

数野遼(平成19年至

この度、父と私が共に一高出身ということで、「親子一高」というテーマでの寄稿を依頼頂いたわけですが、最初に頭をよぎったのは「さて、困ったぞ……」という気持ちでした。私の家族は父と母、弟妹の5人家族私の家族は父と母の2名。父とは出身小学校も中学校も同じで、何かと共身小学校も中学校も同じで、何かと共身小学校も中学校も同じで、何かと共

しかし、私自身は高校卒業後、東京の大学に進学した事もあり、上京後のこの10年間、「一高」が会話に出る機会も、「一高生」としての自分を意識する事も少なくなっていました。(県外で生活されている方の多くも同様ではないでしょうか?)

当然、実家に帰省しても、父との会話の中心はこちらの近況報告や、共通の趣味の話ばかりで、一高についての話はほとんどなかったのでは、と記憶

メディアでの取り上げられ方には、の「強行遠足」の全国ニュース。

OBOGからも賛否あったと伺ってい

す。

となる出来事でした。となる出来事でした。

私が在学していた当時、強行遠足の 工程は長年伝統だった小諸コースでは なく、男子でも全工程50キロほどの野

をしてみようと思った次第です。

父(酒は飲めない)とゆっくり話

初めての強行遠足、今まで経験した こともない5イベントに対し、当時の私 は戦々恐々としていたものですが、父 の方はといえば、「俺の頃は男は10 のキロ近い距離」「50キロなんて半分 程度なんだから余裕だろう」と私に発 破をかけ、自慢気に自分の完走を語っ ていたのを覚えています。

当時を思い返していたのですが、当時 をなんだか気恥ずかしい年頃でした。 もなんだか気恥ずかしい年頃でした。 当然、父の高校時代のエピーソードを 当然、父の高校時代のエピーソードを からお守りをもらったんだろうかからお守りをもらったんだろうか

こすきっかけ になったので、今度帰省した際には、ての記憶、ア か」なんてどうでもいい事が、ふと気ば、久しく忘 イなんて文化が昔からあったんだろう

最後になりますが、父が通っていた時代の一高と、私が通っていた時代の一高は、場所こそ同じであるものの、その校舎も体育館も、食堂も異なりますので、ハードの面では実は全く異なる環境かもしれません。

しかし、強行遠足をはじめとした、「文化」や「伝統」については、数十年の時代を超えて語り合えるものとて、世代を超えて語り合えるものとして息づいており、全国ニュースにも取り上げられるほどの価値をもっる。

そんな一高という母校の魅力について、卒業後10年を迎えて改めて気付かて、卒業後10年を迎えて改めて気付かて、卒業後10年を迎えて改めて気付かにも更に受け継がれるよう、微力ながら貢献していきたいと思っておりま



回能性の異を一世界へ未来へ

一高の1年

夢を抱き、学び、語らい、泣いて、笑って、汗して、新しい発見や 出会いもたくさん経験した一高の1年

SGHの1年

"主体的に課題を解決できる山梨発グローバルリーダー"を目指して、貴重な体験を積んだSGHの1年

SGH (Super Global High School)

文部科学省が「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的に、2014年(平成26年)から5年間、全国の中から56校の高等学校を指定し行っている事業。山梨県では甲府一高が唯一の指定校。

8日、入学式が行われました。今年度は、普 通科240名、英語科40名、計280名の新 人生を迎え、本校体育館で行われました。



応援練習

真剣に取り組みました。 指導する上級生も、指導を受ける新入生も もと、応援練習が体育館で行われました。 14日、15日、一年生を対象に応援団の指導の



構成方法などを具体的にご指

記事の配信のされ方や、記事の める際のポイントを中心に、新聞 得た取材内容を壁新聞にまと 究活動において、実地調査等で

-高の1年

SGHの1年

子14位(11.5点)、女子9位(12点)でした。

第67回山梨県高校総合体育大会

われました。男子はアーチェリー部が、女子はアーチェリー部と山岳部が優勝し、総合順位は男 13日、総合開会式が小瀬スポーツ公園山梨中銀スタジアムで行われました。競技は15日まで行

-高の1年

うお話しいただきました。 に生きるとはどういうことかとい 記者人生を振り返り、グローバル 導いただきました。また、先生の SGHの1年

4月24日、時事通信社甲府支

基調講義「時事通信社」

講義が行われました。今後の探 局長前村敦氏をお招きし、基調









地問題などについてお話しい 態、後継者不足·耕作放棄 お招きし、日本の農業の実 点を探る貴重な時間となり ただき、これからの探究の視 水産省より羽子田知子 氏を を対象に行われました。農林 ラスだけではなく、全校生徒 GH基調講演が開催されま 5月1日、本校体育館におい て、全校生徒を対象としたS 基調講演「農林水産省 た。今年度はSGH対象ク 山梨県立宝石美術専門学校 株式会社サドヤ

造の工程等も見学させていた きました。宝石美術専門学 熟庫なども見学させていただ を聴き、破砕機、樽熟庫、瓶 校では、宝飾品の歴史につい 製法や葡萄栽培などのお話 株式会社サドヤでは、ワインの に、企業訪問を行いました。 後の探究に活かすことを目的 現状と課題に直接触れ、今 だきました。 てのお話しを聴き、宝飾品製 5月8日、山梨の地場産業の

かなければならないこと、

ダーになるために意識してい 催されました。グローバルリー リーダー育成セミナーが開

ーチ)をお招きし、グローバル

方」についてお話しいただき

成果を創り出す8つのあり



企業訪問(県内実地調査) グローバルリーダー

YPシステム認定ビジネスコ 5月17日、内田和俊氏(S 「グローバルリーダーに なるためには何が必要か





関東高校体育大会

部男女、空手部男女、水泳部男子が出場しました。 団体ではアーチェリー部男女、空手部男女が、個人では陸上部男子、テラ部男子、アーチェリー

25日~27日の3日間、一高祭が行われました。1日 聞や似顔絵、部展示などを見ていただきました。 たくさんの方が来校されて、クラス展示、クラス新 でした。3日目は、学校で一般公開がありました。 発表がありました。2日目は、緑が丘体育館で体 表(1年・合唱、2年・ダンス、3年・劇)、文化部 目はコラニー文化ホールで、開祭式のあとクラス発 育祭を実施しました。初の試みでしたが大盛況





一高の1年

ながら敗れました。

甲府西高校と対戦しました。6対11で残念 学校説明会と同19日の2回戦から出場し、 第97回全国高校野球選手権山梨大会

山梨の観光推進計画についてお話し

光客の誘致、受け入れ環境整備など

いただきました。

企業訪問

印傳屋上原勇七

めの人材育成やおもてなし、外国人観 ての展望』と題し、観光客を迎えるた SGHの1年

高の1年

外進出の現状について、東京エレクトロンでは、最新鋭の設備や優れ

6月12日、企業訪問を実施しました。印傳屋では歴史や製法、海

「東京エレクトロン株式会社」

SGH特別授業

取材、インタビューの順序や方法などにつ 社にご勤務されていた兼清先生からは さをお話しいただきました。また、新聞 ける前に、地域のことを知ることの大切 た。山梨の魅力について、世界に目を向

いて具体的にお話しいただきました。

の自主的活動を支援する日新基金で、今年 創立130周年を記念して創立された生徒

日新基金プロジェクト、決定

は美術部の「旅する一美~上海アート研修

」のプロジェクトが採用されました。美術部

SGHの1年

19日、学校説明会がコラニー文化ホールで行

学校説明会

日で上海を訪れ、現地の高校生との交流、 の 10名の生徒が8月の7日 ~ 10日の3泊4

クチャーを受け、多くの刺激をもらいました。 現地の一流アーティストのアトリエを訪問しい

常に高く、多くの中学生と保護者が参加 われました。一高に対する中学生の関心は非

、熱心に聞き入っていました。





た製品を作るための職場管理などについて学びました



の話は、生徒

ている同窓生

を、英語で行っていただきました。グローバルに活躍され

当日は先生の自己紹介や生徒の発表に対する評論

マーフィー先生をお迎えし、特別授業を行いました 6月16日、山梨県SGH運営指導委員の佐智子

の観光振興の課題と原因、解決に向け

お招きし、全校生徒を対象に基調講演が行われました。「山梨 6月5日、山梨県観光部ブランド推進課長の仲田道弘氏を 基調講演「山梨県観光部観光企画課

6月6日、山梨県立大学飯田キャンパス

山梨県立大学」

において、『グローバル化論』(張兵先生)

『山梨学』(波木井昇先生)、『取材論』

(兼清慎|先生)に講義していただきまし

経験になりま とない貴重な にとってまた

集中講義「山梨県立大学」

地域活性化のために必要なことを学びました 策課題』(吉田均先生)、『地域振興論』(安達義通先生)に講義 7月11日、山梨県立大学飯田キャンパスにおいて、『山梨の政 していただきました。観光産業を通した山梨の魅力と課題











SGH特別授業

7月17日、本稿百周年記念館に山梨県立大学の吉田均先生を を学びました。この講義以降、生徒達は積極的に「山梨日々新 のコミュニケーションツールとして有効な手段であること 方法』と題し講義をしていただきました。新聞投稿が社会と お招きし、『新聞投稿を通じた社会とのコミュニケーション

聞」に投稿し、定期的に新聞に掲載されています

この夏、多くの部活動が全国大会に出場

新聞部、放 全国高校総合文化祭(滋賀県)には美術 中10位で惜しくも入賞を逃しました。また 子が出場しました。山岳部女子は47チーム はアーチェリー男女、テニス部男子、空手部女 れた全国高校総体(インターハイ)に団体は 近畿地区で7月下旬から8月中旬に開催さ アーチェリー部男女、山岳部女子が、個人で

で優良賞を という結果 が出場。新 送部、弦楽 聞部は13位 部、文学部、 ア・カペラ部

いただきま



平成27年度「探究科」説明会

探究科説明会

定員8人の学科の説明会に500人近い申 で初めて開設される学科ということもあり、 23日、来年度から新設される探究科の説明 会が本校視聴覚室で行われました。山梨県 し込みがありる部に分けて行いました。

月

12日、吹奏楽部が西関東吹奏楽コンクール 高校Aの部に出場し、銅賞を受賞しました。

西関東吹奏楽コンクール

一高の1年

ました。自社ブランド evam eva(エ 活かす~』と題し、ご講話いただき 場は覇権争いの場。日本の優位性を を持ち世界を相手に!~世界の市

発など、次世代エネルギーへの理解を深め ました。水素を使った新しいエネルギーの開 ローバル人材育成について」ご講話いただき 大学における産学官研究開発連携とグ 境エネルギー政策と燃料電池および山梨

様々な角度から物事を考える態度を養う

ことができました

近藤和也氏をお招きし、『夢、戦略 9月4日、近藤ニット代表取締役の

究センターの内田誠先生をお招きし、『環

711日、山梨大学燃料電池ナノ材料研

講話会「近藤二ット株式会社

講話会「山梨大学」

で、農業の課題、原因、解決策を探ることがで

ていただき、現状についてお話しいただくこと 、ホームステイさせていただき、農業体験をさせ 市を中心に実地調査を行ってきました。農家 の資質の向上を期し、長野県塩尻市と飯田 深い教養を身に付け、グローバルリーダーとして 8月20日~21日、社会課題に対する関心と

SGHの1年

国内実地調査 —

長野県

SGHの1年

たきました。 いてお話しいた

集中講義「山梨大学」



経営手法につ 緯から、欧米





されたワイン酵母でダ

ノル発酵させることによ

後に、山梨大学で開発

作った飲むヨーグルト り商品化した「大豆で

なかなか美味でした

-高の1年



講話会「株式会社タンザワ

先生からはワインの醸造法、酵母、発酵に 彦先生)に講義していただきました。柳田 資源の価値と国際経済の基礎』(渡邊幹 て、「ワイン科学」(柳田藤寿先生)、「自然 9月13日、山梨大学甲府キャンパスにおい

れまでの事例や今後の計画などをお話し る。と題しご講話いただきました。甲州夢 府をどのように活性化させていくのか、こ 小路や築城計画、空き家の増加など、甲 徒全員を対象に「甲府の街づくりを考え 会長の丹沢良治氏をお招きし、一学年生 9月18日、株式会社タンザワ代表取締役 したたきました。



状と課題に触 ンポジストを依 解決策を模索 創世するための よりよい山梨を れていただき 頼し、本県の現 ラムを企画、運営。PTAの方々を中心にジ 魅力を世界に2015やまなしブランド 県民部企画課)長谷川正一郎氏(長谷 氏(株式会社甲斐物産商会·NPO法 ました。生徒が主体となり、ブランドフォー フォーラム」が本校視聴覚室にて開催され 学国際政策学部)」をお招きし、「山梨の 会社フォネット)中村洋一氏(山梨県企画 人山梨水晶会議理事) 井上文人氏 (醸造株式会社) 吉田均氏(山梨県立大 一税務会計事務所)清水栄一氏(株式

やまなしブランドフォーラム いただきました

9月2日、6名のシンポジスト[石原基平

講話会「勝沼醸造株式会社」

ワイン産業が抱え

展開についてご講話 ンカ」の開発と海外 る問題点や、自社 分ランドアルガブラ

舞台にした甲州ワイン』と題し、山梨県の 締役の有賀雄二氏をお招きし、『世界を 9月25日、勝沼醸造株式会社代表取

カレーを食しながら意見交換を行い、有意義な時 あり方をイメージしつつ傾聴していました。また、 当日は元神農園さんの野菜を使った手作り野菜

間を過ごしました



8月29日、マル神農園の雨宮陽一氏、ありが桃園 講話会「マル神農園」「ありが桃園

第89回強行遠足

当日は多くの同窓生の方にご協力をいただ 43. 2 km 足も実施され、本校から2年生4名が参加 海道北見市の北見北斗高校第83回強行遠 きました。同じ4日には、交流を行っている北 達率は男子8.6%、女子9%でした。大会 が行われました。男子は学校から小諸までの 3日、4日、本校最大の行事である強行遠足 105.7km、女子は高根から小海までの ゴールし新記録を樹立しました。 しました。本校の大澤さんは、女子のトップで 、自己の力の限界に挑みました。到



教養講演

ローレ」(南米の民族音楽)で、ペルーの楽団・ア に、異文化理解を深め、他者の文化を尊重 た。この公演を通して豊かな心を育むととも ンデスの風・インカニャンの演奏を鑑賞しまし しました。本年は音楽鑑賞会「ペルー・フォルク 16日、本校体育館において教養講演を実施 する精神を養いました。

創立135周年記念講演

はとてもインパクトがあるもので、そのアドバイ で講演していただきました。大先輩の経験談 のみなさんにお伝えしたいことーという演題 副社長:清水喜彦氏に『Message』~後輩 のSMBC日興証券株式会社代表取締役 が開催されました。本校OBで昭和49年卒 29日、本校創立135周年を記念し講演会 スは生徒達の心に大きく突き刺さりました。

場しました。 関東高校選抜大会へ出場しました。また、陸 24日を中心に新人大会が行われました。この 行われた関東高等学校駅伝競走大会に出 伝県予選大会で5位に入賞し、11月21日に 上部女子が31日に実施された全国高校駅 結果、アーチェリー部男女が11月14、15日の

高の1年

SGHの1年

SGHの1年

SGH校内プレゼン大会

後反駁の時間を設け、考えを深 にまとめてプレゼンを実施。その いてプレゼン大会を実施しまし 11月13日(Ⅰ)と1月15日(Ⅱ)の 見をいただきました。 生にもお越し頂き、貴重なご意 日は県の観光部や県立大学の先 めることができました。また、当 グループ毎に探究内容をポスター ドネシア/フィリピンに輸出する 向けた外国人受け入れ構想 両日、1年6・7組の各教室にお 【アウトバウンドテーマ】○○をイン インバウンドテーマ2020年に

地の高校生徒と交流し ジャカルタに派遣され、現

徒 21名がインドネシア・ に寄与する。)に本校生



る優秀な人材を招聘・派遣し、日本の外

域との間で、将来各界で活躍が期待され

2015(日本とアジア大洋州の各国・地 日理解促進交流プログラJENESYS 10月19日~28日、日本政府が推進する対

インドネシア派遣事業 JENESYS2015







サイエンスダイアログ

て、英語を通じて学ぶ機会になりました。 外国人若手研究者都債先端の研究につい 経済や先生の出身国モルドバについてなど ンスダイアログが開催されました。グローバル Deseatnicov博士をお招きし、サイエ 10月30日、一橋大学経済研究所のIvan



ら行われる全国総文祭広島大会への出場が 部が、県内最多の5部門で、来年7月30日か

決まりました。

ホールでグランドステージが行われました。筝

者が800人以上来校しました。

-高の1年

学・部活動見学等が行われ、中学生、保護

山型県産を世界へ川が

4人が参加しました。5日にはコラニー文化

曲部、美術部、新聞部、書道部、文学部の5

芸術文化祭が行われ、本校からは13部、17

と午後の2回に分けて、授業見学・施設見14日、オープンスクールが行われました。午前

10月から11月にかけて、県内各地で県高校 第36回山梨県高校芸術文化祭

研修旅行

修は、普段の生活では得ることのできない貴重な経験をすることができました。8日~11日の日程で、2年生が沖縄に研修旅行に行きました。クラス別の平和研修や班別研





一高の1年

1 /

16日、17日の2日間の大学入試センター試験

大学入試センター試験

に268名の生徒が挑みました。

SGHの1年

一高の1年

12月

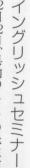
SGHの1年

校内やまなしブランドサミット

及びコミニケーション力を高めることができました。探究内容を発表しました。反駁をすることで、深く社会課題を掘り下げ、論理的思考力探究内容を発表しました。反駁をすることで、深く社会課題を掘り下げ、論理的思考力







もに、国際理解の一助となりました。外国人の先生方との交流により、生きた英語に触れ、英語による発進力を伸ばすととた。外国人の先生方との交流により、生きた英語に触れ、英語による発進力を伸ばすとと12月12日、 県内のALTの先生方12名をお招きし、イングリッシュセミナーを開催しまし





表彰式·同窓会入会式

式および表彰式が行われました。表彰式では外部団体表彰29日、同窓会役員の皆様にもご来校いただき、同窓会入会 69名、生徒会功労賞55名が表彰されました。



35名、計272名の卒業生が母 校を巣立っていきました。 1日、普通科237名、英語科



9日から19日の日程で1年生がオーストラリ 短期研修を行いました。 アへ、10日~17日の日程で2年生がアメリカへ



-高の1年

月

SGHの1年

組み、姉妹校であるヘンリー高校の生徒との交流

ホームステイをしながらSGHの実地調査に取り

を深めました。英語で行ったプレゼンテーションでは

SGHの1年

年生生徒20名参加

【3月9日~19日、オーストラリア(アデレード)、

アメリカリー

ダー研修

オーストラリア研修・

ション能力を高めることもでき、有意義な短期研 内容を英語で発表したことにより、プレゼンテー る良いきっかけになりました。さらに、SGHの活動 文化体験をしました。そのことが世界に目を向け サンゼルスのヘメット高校の訪問等を通し、様々な異 UCLAの学生との交流やスタンフォード大学・ロ

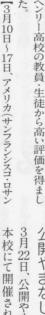












本校にて開催されました。一高SGHの 3月22日、公開やまなしブランドサミットが 英語でプレゼンするなど、積極的に取り組 徒たちはパワーポイントやポスターを用い、 様々なご意見・ご助言を頂戴しました。生 内外から多くの方々にご参加いただき、 公開やまなしブランドサミット んでいました。 年間の探究の成果を発表しました。県

※アメリカリーダー研修は平成27年度より実施

ゼルス)、二年生生徒10名参加





谷口百合子 一紅会会長



紅会の歩みを つめながら

年になります。

援を賜りますようお願い申し上げます。 でも進化して行けますように、微力ながら努 力する所存です。どうぞ一層のご指導、ご支 来し方を省み、新しい時代を見据えて、少し 来年は節目の第二十回講演会を迎えます。

▲ 幹事会の様子

は第十四回春の講演会開催日でした。目を 災の悲惨な恐怖を思い起こします。翌十二日 しました。この辛くて重い経験は、一紅会の た。そして秋に場所を変えて講演会のみ開催 覆う甚大な被害に、早朝急遽中止を決定し、 結束を強固にして絆は揺ぎ無いものになりま か二時間程で迅速に中止連絡を遂行しまし 各学年幹事を通じて参加予定者全員に、僅 齎した痛ましい惨状に、五年前の三・一一震 熊本県を中心に頻発している大規模地震が

を学びながら、今年は三月十二日、 究同好会も、春・秋二回の活動を続けて十 以て運営していますが、将来に思いを巡らす います。また、一紅会は、年三回の幹事会を 頂き盛況裏に終えましたことを深く感謝して きました。四百名を越える同窓生のご参加を は『日本』の酒である」と題して講演して頂 十八年卒)をリーダーとして発足した歴史研 氏(四十三年卒)をお迎えして「ウイスキー 毎年一度の講演会を重ねる度多くの事柄 平成卒の幹事の少ない事に憂慮していま 第八回講演会を契機に渡辺房男氏(三 輿水精

> なんです 出来のいいお酒ばかりを混ぜてもだめ うすると、香りと味に深みが出る。 出来損ないのお酒を混ぜるんです。そ そこにちょっとクセのある、正反対の、 優等生のお酒だけでは物足りない。

出したのが今年の一紅会。3月12日、 況となった。 428名の同級生が詰めかける大盛 された春の講演会には、 千代田区のアルカディア市ヶ谷で開催 んな味わい深い金言がポンポンと飛び う~ん、深い。すべてに通ずる、こ 過去最高の

第19回 「一紅会」主催 春の講演会 ーは 日本 」の酒である



今年の講師は昭和43年(1968年)の卒業生でサントリーの名誉チーフブレンダーである輿水精一氏。山梨大学工学部発酵生産学科卒業後、サントリーに入社し、多摩川工場にサントリーに入社し、多摩川工場に配属されたのが振り出しだったという。配属されたのが振り出しだったという。でらに中央研究所、山崎ディスティラさらに中央研究所、山崎ディスティラン・洋酒研究所ブレンダー室を務めている。

ウイスキー好きにはたまらない



時50年、山崎35年、白州25年、響崎50年、山崎35年、白州25年、響30年」は世界的な酒類コンペティ「響30年」は世界的な酒類コンペティ「響30年」は世界的な酒類コンペティリッツ・チャレンジ(通称 I SC) で3年連続4回、最高賞を受賞。サントリーウイスキーを世界の一流ブランドに育て上げた立役者が、興水氏なのだ。14年からは名誉チーフブレンダーとなり、昨年には「Whisky Maggazine」に関党)に、日本人として初めて選出されている。

第一部の講演会は卒業生で構成される「フロイデ混声合唱団」の「ウイスキーが、お好きでしょ」で幕開け。
朝ドラの「マッサン」ではニッカウヰスキー朝ドラの「マッサン」ではニッカウヰスキーの竹鶴政孝(ドラマでは亀山政春役=玉山鉄二)がモデルとなり、サントリーの創業者鳥井信治郎(鴨居欣次郎役=堤真1)は経営者としか描かれなかった。

しかし実は鳥井こそがマスターブレンダーでウイスキーの香りと味わいを識がしてきる、高い能力を持ったマスターブレンダーであつたことが明かされた。大正15年、日本初のウイスキー白人正15年、日本初のウイスキー白

時の日本人にはスモーキーフレーバーがを重ね角瓶、オールドへとつながってきを重ね角瓶、オールドへとつながってきた経緯もなぞられた。初代の鳥井に2代目の佐治敬三、3代目の鳥井信吾と経営者がマスターブレンダーを兼ねたことこそ、日本のウイスキーが世界に認められた原因であったことも強調に認められた原因であったことも強調に認められた原因であったことも強調した。

開発手法。「まずこんな味わいのもの開発手法。「まずこんな味わいのもの開発手法。「まずこんな味わいのもの開発手法。「まずこんな味わいのもの別でするに、山口瞳らが所属したさらに開高健、山口瞳らが所属したかされるのはマーケティング第1の商品かされるのはマーケティング第1の商品がされるのはマーケティング第1の商品がされるのはマーケティング第1の商品が表表している。

にしようというイメージを作る」ことからスタートし、デザイナーとブレンダーが商品を作り上げていく手法も明かされた。食事をどう組み合わせてウイスキーを楽しむかに主眼を置き和食に合う「白角」が誕生。さらに度数43%、味わいの濃さをハッキリ体感してほしいというコンセプトで「黒角」が開発されていった経緯も紹介された。

また、バーテンダーを「こいつはできる」とうならせる飲み方もプレゼントしてくれた。ウィスキーを注文し「スプーシー杯の水を」と付け加えればOKとのこと。サントリーの商品すべてに通ずる「やつてみなはれの精神」が、次から次へと明かされた1時間半。脚水氏からしか聞けない逸話のオンパレードだった。

最後に井上会長が「名ブレンダーの最後に井上会長が「名ブレンダーのまで同窓会を迎えたい」と挨拶。シングルモルトの原酒の入ったり挨拶。シングルモルトの原酒の入ったりまであると突入していった。

た。(文責・小川朗=昭和33年卒) た。(文責・小川朗=昭和53年卒) たっていく笑顔とともに、交流を深めまっていく笑顔とともに、交流を深めまっていく笑顔とともに、交流を深めまっていく実顔としている。



幹事からの



<日新鐘 プロフィール> 直径40cm 高さ60cm

昭和3年、旧本館完成と 共に、屋上に設置され た。当時の第9代校長・ 江口俊博先生が、日新精 神のもと「日新鐘」と命 名。現本館新築時に、ア トリウムの視聴覚室側 壁面に移設された。



IT部会長 佐野 敬司

IT部会長をやらさせて貰いましたが、当 初は52年卒の先輩からの引き継ぎや、東 京同窓会中央執行部との兼ね合いがあ り、良く理解できませんでしたが、一紅 会の幹事を経て、皆良くここまで頑張っ たと思います!!。一人の力では何とも出 来ず、絆を深めた一年近い準備期間だっ たと思います。今後の母校の巻き返しと 発展を祈念して、挨拶とします。



懇親部会長 坂本 浩志

甲府中学・甲府一高東京同窓会も、近年600人内外 の参加者を数え、盛況に開催できるようになりまし た。参加者皆様の愛校心と幹事へのご協力の賜物 と感謝申し上げます。

今後ますますの盛況と継続を期し、若い世代、特に 平成卒年次の誘致は不可欠と思う次第です。最近 の傾向として、この同窓会を機に、年に1度の同級 会を催す年次の方々も多いようです。集まる機会 となっていることも喜ばしいことです。 昨今、同窓会や同級会等非常にリーズナブルに開

ルー・ロールステリルに開催できる会場が増えてきています。 東京同窓会の後、2次会に同級会を、と企画しておられる方々からは、同窓会会費がやや負担になっているとの声も多く聴いております。今後の課題と して、もっと気軽に集える会を目指し、一工夫、二工 夫して、更に多くの方々にも足を運んでいただけ るよう、次年度幹事に引き継いでいく所存です。



広告部会長 勝村 良一

まずは、広告ご出稿、ご協賛頂きました 皆様に深く御礼申し上げます。広告会社 勤務なので広告部会長、という判り易い 理由で引き受けはしましたが、正直大変 でした。何とかやり遂げられたのは級友 の支援、広告部会の仲間の力です。そし て、今回改めて感じたのは、先輩の皆様 の熱い母校愛、同期同士の皆様との交流 の活力。我々も後輩に繋げていかなけれ ばと想いを強くしました。



副幹事長·事務局長 小川 朗

東スポから独立して初のGW。週刊パー ゴルフ、月刊ゴルフ用品界、グリーンゴ ラさんの原稿が片付けば後はゴルフ三 昧の予定だった。だが谷間の6日は母校 の校長室で座談会(巻頭特集です)が。7 日と8日は幹事会資料のエクセル、ワー ドと格闘するハメに。気が付けばテレビ では「帰省ラッシュ」のニュースが流れ ていた。残されたもの。それは「体重10+ロ 増」という「重たい事実」のみだった。



会計部会長 小林 明人

会計部会の仕事を引き受けてのあっと いう間の1年間でした。口座開設など手 間はかかりましたが、ようやくここまで 来ました。会計部会は予算作成・入金 チェック・支払等が主な仕事ですが、周 りの仲間たちのいろいろな協力があっ たからこそ、何とか乗り越えられそうで す。最後の決算報告まで、もう少し頑張 ります。皆さんの協力お願いします。



一紅会 朝戸直美

この一年は「一高」Year!一紅会、東京同 窓会、フロイデ混声合唱団で活動する 中、素晴らしい先輩や後輩との出会い、 そして同級生との親交があり、大変さよ りも得るものが大きかったです。実は、 卒業後、同窓会関係にはずっと無縁でし た。そんな私が50代で、訳も分からない まま、一紅会幹事になってからというも の、「一高」は私の中でとても大きなもの になっていきました。素敵な同窓生の皆 様に心より感謝申し上げます。



日新鐘部会長 榛原 勧

幹事メッセージと言う事で、今回の幹事 を行う事で、やはり必要なのは各々のつ ながりと言うことになるであろう。各 自、仕事を待ちながらこれまでやって来 られたのも、各自がそれぞれの持ち場を うまくこなした事に他ならないと感じ ている。諸先輩方もこの道を進まれ、そ して団結をしたのであろうと感ずる。こ れを機会に、学年の絆をより深くし、ま だこれから長い人生を、一緒に過ごして 行ければと思いさせられる行事であり、 後輩達もこの時間を有効に使って欲し いものだ。



一紅会·事務局 小澤 恵美

卒業後、これほど頻繁に同窓生と会うこ とはなかったです。久しぶりの顔、在校時 には知らなかった顔、新たなソサエティ ができました。一紅会の講演会、東京同窓 会ともに大イベントです!やったことが ないことも、不慣れなことも、いろいろ乗 り越えて、今日を迎えられたことにほっ としています。

東京同窓会が57回目(私たちと同じ年なん ですね)、これからもこの同窓会が続くよう に、しっかり襷を渡したいと思います。

平成28年度当番幹事 昭和53年卒

幹事長

飯窪光降

副幹事長

小川 朗/勝村良一

事務局

小川朗/小澤恵美/保坂圭一小井明人/四澤増子/吉川仁美

会計部会

小林明人/田澤増子/吉川仁美

広告部会

勝村良一/長澤祐司/長田裕里

都築由紀子

懇親部会

坂本浩志/二宮 功/有賀賢二

中村克彦/長沼 渡/望月 到/松山直江

小島園子

日新鐘部会

榛原 勧/小川 朗/坂本朗子

IT部会

佐野敬司/野村 徹

一紅会

朝戸直美/小澤恵美/田澤増子/

都築由紀子

甲府部会

荻野雅彦/青柳真須美

サブ当番幹事 古屋哲郎

ご協力をいただいた方々 一ありがとうございました一

■甲府第一高等学校

校長 堀井 昭先生 総務広報主任 望月光紀先生 SGH推進担当 古屋彰士先生

■特集

保坂 司様(㈱甲府古湯坊 会長) (株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 運営担当(副) 兼 強化部補佐 長田圭介様 現役甲府一高サッカー部の皆様

■寄稿

埼玉医科大学

神経精神科·心療内科 太田敏男教授(昭和45年卒) 松木茂様(昭和53年卒) 数野遼様(平成19年卒)

2016甲府中学·甲府一高東京同窓会記念誌「日新鐘」Vol.23

発行日

平成28年7月9日(土)

発行者

甲府中学•甲府一高東京同窓会

編集者

日新鐘部会

デザイン・製作 印刷・製本 株式会社エンジュ 松田印刷株式会社

永遠の一高 ~未来への襷~

Ask what we can do in TOKYO for ICHIKO

編集後記

さて、日新鐘も数えてVol23となり、数多くの力作を世に送り出して来た。第57回甲府中学・甲府一高東京同窓会の冊子として、如何に読者に読んで頂けるかを目的として、記事の題材を幹事一同で考え、特集として山梨県に係わり合いが深いサッカーを選択し、卒業生であり精神科医である教授や、親子で一高を卒業した方々にもお手伝い頂いたり、甲府一高の先生方へもお願いしたりと、多くの人たちのお世話になって、やっと出来上がりました。作成に関しては、やはり以前のように原稿を印刷してアナログデータを持ち込むような事は無く、すべてメールによるデジタルデータにての作成になり、時間及び労力の短縮になったことは、昔からは想像出来ない事だと思う。

同窓会には同窓会の歴史があり、日新鐘には日新鐘の歴史があると感じている。その時その時の時事に関した内容も有ったであろうし、その時の文化を伝える原稿もあったと思う。今回、そのような歴史の1ページにVoL23も加えられる事は、日新鐘部としては感無量である。

今回、小川さんを初めとして、原稿を提供して頂いた方々には、大変有難う御座いました。、また、最初の打合せから最後の印刷から配送までお世話になりました松田印刷(株)南雲様、レイアウトや文字修正等をして頂いたエンジュ目黒様には、大変ご迷惑をお掛けしたと思いますが、日新鐘が完成したのは、ひとえに皆様方のお力添えによるものだと思います。有難うございました。

御礼方々、編集後記とさせて頂きます。

日新鐘部会·榛原 勧



当社のキャラクター【柳小面】

この能面は、金春の座附きであった大蔵彌右衛門虎明(慶長七年の時六歳)の書いた「わらべ草」「登髭」「金春小面と同じ作、同木にて打たる面也、今ノ金春小面ハ柳ナリ」とある小面のことと云われている。池田家伝来。

この能面を、演者で製品の提供者である(株)ジャステックと鑑賞者で製品の使用者であるお客様とを結ぶキャラクターとして採用しました。

経営理念

マンパワーリースを 排除したソフトウェア開発 及び販売を専業とし、 関連業務の多角化でなく 開発分野の総合化と 流通化を図り、 情報社会に貢献する。

ソフトウェア市場の 確立のために、 顧客の啓蒙と開拓に 先導的役割を果たす。 外に向かって、 地球と人類に貢献する 文化活動、内に向かって、 技術者の意識改革を 前提として、豊かで幸せな 人生を追求する。

一分野一社を原則とし、 顧客の信用と安全を図る。 社員持株制度を採用し、経営への参加を認める。



株式会社 ジャステック

取締役会長 神山 茂 (昭和30年卒)

〒108-0074 東京都港区高輪3-5-23 TEL.03(3446)0295(代表) ホームページアドレス http://www.jastec.co.jp/